

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和6年2月13日

事業所名 障害児学童保育所ぱる

保護者等数(児童数) 16世帯

回収数 16世帯

割合 100%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	93%	7%	0%	0%		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	71%	29%	0%	0%	我が子にまで手が回っているか心配な面がある。	基準より人員は手厚く配置していることを保護者に理解してもらう工夫が必要である
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	86%	14%	0%	0%		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	93%	7%	0%	0%	未達が多かったので出来そうな目標に下げてください。	計画作成の際には保護者と十分な話し合いをするとともに、未達についての捉え方についても丁寧な説明を行う必要がある
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	100%	0%	0%	0%		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	29%	64%	7%	0%		子どもたちの遊びの内容が異なるため難しいところです。
保護者への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%	0%	0%	0%		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%	0%	0%	0%		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%	0%	0%	0%		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	29%	43%	29%	0%		
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	86%	14%	0%	0%	安全に関わることは即時対応してほしい。	安全に関わることは即時対応しているが、ケガに気づかなかった時に保護者への説明が遅れてしまった。痛みを訴えられない子どもの場合は特に気を付けるようにしたい。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%	0%	0%	0%		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	86%	14%	0%	0%		
	14 個人情報に十分注意しているか	93%	7%	0%	0%		
非常時等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	86%	7%	7%	0%		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	79%	21%	0%	0%		随時、保護者への丁寧な説明にこころがけたい。
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	100%	0%	0%	0%		
	18 事業所の支援に満足しているか	100%	0%	0%	0%		

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月13日

事業所名 障害児学童保育所ばる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子どもたちが気持ちを解放しやすいような環境になっている(天井が高い、園庭がある)	
	2	職員の配置数は適切である	○			基準は満たしているが、個別対応が必要な子どもが多いことを考えると、もう少し手厚く配置できた方がよい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全職員の会議の中で計画作成と振り返りをしている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート結果を見る中で、日頃のやりとりや面談等の中で出てこない意見もあり、支援の参考にしている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		法人として、第三者委員はいるが、鹿児島市在住であることがネックであることを踏まえ、もっと身近な地域の委員選出について検討していく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所・法人内研修だけでなく、オンラインの外部研修も積極的に受ける機会を作っている	学んだことを実践で活かせるよう、振り返る機会を増やしていく
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		○	長期休暇における活動プログラムの立案は、1ヶ月程度前からチームで活動準備も含めて行っている	放課後における活動プログラムの立案は、当日のリーダーを中心として、全職員の意見を反映しておこなっていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		屋外活動と室内活動、手指を使った遊びや体全体を使った遊びなど、前後の活動を見ながら、様々な活動を取り入れている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		子どもたちの体調を見ながら、全体活動、個別活動、日常生活習慣(食事、排泄等)を設定している。また、行事等の際には、子どもたちに事前に伝えながら、臨機応変なスケジュールをしている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもたち一人ひとりの課題を踏まえながら、計画を作成している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日の職員で活動内容や注意すべき点を共有する時間を作っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		当日は時間的に難しいので、翌日には必ず振り返りを行っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の支援を随時振り返っていることを前提としたうえで、記録の書き方について、定期的に全職員で共有する時間を設けている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		必要に応じて相談センターや学校等と連携を取りながら、次期の個別支援計画につなげている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		毎年、職員会議のなかで確認、共有する時間を作っており、ガイドラインを確認しながら支援にあたっている	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議には、児発管もしくは所長が参加し、情報の共有に努めている	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者からの情報をもとに、適宜学校と連携を取りながら、下校時刻の確認や子どもの様子など情報交換している	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		必要に応じて、当時の担任の先生とも直接連携をとっている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		研修には積極的に参加するようにしている	身近に利用しやすい「療育等支援事業」について、積極的に利用していく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		未成年のボランティアの受け入れを長期休暇時に募集し、交流につなげている。	子どもたちの障害特性(特に行動障害)や程度により、同年代の子どもとの交流については、交流のあり方について、配慮点を洗い出し、整理する必要がある。それを、保護者も含めて検討している
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		自立支援部会の中の子ども部会に所属し、会議等に積極的に参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者の迎えがあった時に、活動の様子を日々伝えている、必要に応じて、電話連絡等もしている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者が自分の子どもの行動を理解したり、障害特性をふまえた対応ができるよう支援している	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		新規契約時を含め、毎年の契約更新時や受給者証の更新時に説明を行っている、また利用料等で質問があればその都度説明する	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		お迎え時や面談等の中で話を聞いている、必要があれば、相談センターや他機関とも連携をとるが、まずは話を聞くことが大切と考えている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者の意見を反映しながら、参加しやすい保護者会を計画していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月の通信の中で、活動の様子がわかるように、画像を添付する、活動の目的を記すなどの工夫をしている	
	35	個人情報に十分注意している	○		保護者に書類をお渡しする際封筒に入れる、書類の順番を配慮するなど、簡単に見えないようにしている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		子ども1人一人に合わせたコミュニケーションができるよう配慮している、また、保護者の方とお話する際には必要に応じて別に機会を設定するなどしている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年に1回のお祭りには、地域の方や関係事業所に案内している	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		マニュアルの定期的な見直しと保護者に対する周知を徹底する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	職員だけの訓練、子どもたちも一緒に行う訓練、同一敷地内の他事業所との合同訓練をしている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○	実践の質を高める＝虐待防止であるという認識のもと、事業所内外の研修に積極的に参加している	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	身体拘束を行う可能性のある子ども(自傷・他害等の行動障害等)の対応について、学習を重ねている	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	アレルギーテストの結果は保護者から情報提供してもらっている	医師の指示に基づいた対応ができるよう指示書の導入について検討する(実費をどうするか課題はある)
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	ヒヤリハットの事例は報告共有している	事例集の作成について、法人全体で検討する